

年頭所感



PC建築部会長
宍戸 宏
株式会社建研 代表取締役社長

2017年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、平素よりプレハブ建築協会およびPC建築部会の活動に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、イギリスのEU離脱、アメリカ次期大統領の決定等、我が国の経済にも影響を与えるような大きな事柄がありました。このような環境の中で我が国経済は、政府・日銀による政策効果もあり、回復基調ではあるものの、やや足踏みが見られる状況でありました。

建設業界におきましては、公共投資が減少し、工事原価が高止まりしているものの、堅調な企業収益に支えられ、投資マインドはやや改善してきている状況です。内需につきましては、依然として停滞が続いていますが、民間工事は底堅く推移いたしました。今後、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、インフラ整備を含めた建設需要が予想されます。この建設需要と、数多く進められている再開発事業も、首都圏に限定されている状況ではありますが、大都市圏においては、地価の上昇等もあり建設業界には追い風となっています。全国的には建設業界としては、今後も厳しい環境が続くものと思いますが、リニア中央新幹線の本格的着工、北陸新幹線の延伸等が、建設業界として今後期待される大型プロジェクトであると思います。

今年の3月で、東日本大震災から早や6年が経過します。福島県いわき市において、いち早くPC工法が採用されて一級建築士事務所（一社）プレハブ建築協会が設計および監理を受託し、PC建築部会が連携して取り組んで参り、いわき市より感謝状を頂くことができました。PC工法に対して高い評価を受けたことによるもので、大変光栄なことと思っております。

昨年のPC建築部会におきましては、PC部材品質認定事業と致しまして、新たに7工場の新規認定を行いました。現在、国内では65工場・海外においては2工場が、認定工場として稼働しております。PC構造審査委員会においては、昨年は5件・22棟の物件の審査を致しました。また、PC工法施工管理技術者資格認定事業としまして、昨年は新規受講者を含め受験者は166人でありました。現在の有資格者は479名であります。

PC建築部会・総合技術委員会においては、JASS 10の改定にともなう技術指針の改定として、2014年に発刊した「プレキャスト鉄筋コンクリート工事施工技術指針」に続き、およそ2年をかけて行ってきた各種実験結果をもとにし「プレキャスト鉄筋コンクリート部材製造技術指針」を本年の1月に発刊します。また、現在PC部材製造管理技術者資格認定制度の実施に向けた準備を行っ

ております。

今後とも在来工法に対するPC工法の優位性・多様性・特徴を各方面の方々にご説明させていただき、PC建築のさらなる発展・普及を目指して活動して参りますので、皆様の格別の御指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各社様の社業の益々の発展と、今年一年の皆様方のご健康、ご多幸を心より願ひまして、私の新年のご挨拶とさせていただきます。